



導かれるように介護の世界へ

佐久市長土呂にある小規模多機能型居宅介護事業所あったかほーむいしずえ（エフビー介護サービス株式会社）で管理者として働く小須田 龍紀さんは、若手でありながら介護業界を牽引する介護福祉士の一人です。

幼少期、中国で暮らしていたという小須田さんは、11歳の時に家族とともに故郷である佐久へ。中学・高校と地元の学校に通い、大学進学のため上京しました。大学では、マーケティングの勉強をしていたという小須田さん。卒業後も介護とは異なる業界で働いていたそうです。

そんなとき、祖父の死期が近づいているとの知らせを受け佐久へ帰郷。

「家族の転機をきっかけに将来を考えた時、このまま東京にいらなくてはならない理由が見出せなくなったんです。おじいちゃんももう長くないという状態で、家族の希望もあって地元に戻ることにしました」

そんな小須田さんが介護の道に進むきっかけとなったのは、祖父の闘病中の出来事だったそう。

「おじいちゃんが闘病中に福祉用具を借りていたのですが、その会社がたまたまエフビー介護サービスでした。エフビーは、介護事業と福祉用具事業のほかに海外事業を展開していて、中国にも拠点を広げていることを知り興味が沸いたんです。ただ当時は全くの介護未経験者。そこでまずは介護を知るために現場へ配属となりました」

「会社のバックアップで入職と同時に初任者研修を取り、働きながら介護を学びました。研修で学んだことがすぐに現場で活かせる。「これかぁ！」とすごく勉強になりました。大変なこともありましたが、とにかく毎日が

本当に楽しかったですね」介護福祉士取得後は、有料老人ホームや小規模多機能型居宅介護事業所で経験を積み、入職7年目にして小規模多機能型居宅介護事業所あつたかほーむいしずえの管理者となりました。

長い人生の最後に寄り添う仕事。「知り合えてよかった」その言葉に涙。



○日頃、どのようなことを大切に利用者さんと関わっていますか？

「うちのような小規模多機能型の事業所を利用されている方の多くは認知症の方なのですが、認知症を患うと表情が乏しくなったり、沈んだような顔つきになることがあるんです。そんな姿を見ているとずっとではなくても、少しでもいいから笑っていてほしい。楽しく過ごしてもらいたいと思ったんです。介護の仕事をはじめたときからずっとその想いを大切にしています」

○介護の仕事のやりがいや魅力はどんなところですか？

「この仕事は本当に勉強になることばかり。長い人生を歩んでこられた利用者さんから教わることは、もう勉強になるなんてもんじゃないですね。いずれは自分も辿る道ですし、何より長い人生の最後に関わるっていうのは難しいことですが、とても深い仕事だと思います。大変なこともあります。続けていくことで見える喜び、楽しさがあります」

「初めて看取りをさせて頂いた時は涙が止まりませんでした。すぐ感極まって泣いちゃうので、利用者さんとよく一緒に泣いていましたね。施設に入ることを嫌がり、何度も帰りたいと仰っていた方が、心を通わせる中で、最後に『知り合えてよかった』と言ってくださった時は、この仕事をやっていてこんなに嬉しいことはないなど。この仕事に出会えて本当によかったと思いました」

○小規模多機能型居宅介護事業所の魅力を教えてください

「小規模多機能型居宅介護は、デイサービスなどの通いを中心に訪問介護やショートステイを自由に組み合わせ、認知症や中重度の要介護者となっても、在宅での生活が続けられるように支援する施設です。例えば、月曜日は通所と決められていても、時には行きたくない日だってあると思うんです。小規模多機能型の場合、通所に行きたくない場合はお家でも介護が受けられますし、好きな時間に自由に来ることもできます。その方に合わせた柔軟な提供ができるところが魅力だと思います」

「オープンな施設を目指して、もっと地域とつながりたい」



○長土呂地区と手を携えて。地域と共にあり続ける小規模多機能型居宅介護事業所あったかほーむいしずえ

「地元長土呂地区のイベントがあれば極力参加させてもらっています。地域の皆さんとつながる中で、民生委員さんが翌月のいきいきサロンのチラシをわざわざ持ってきてくださったり、色々な方が立ち寄ってくださっています。利用者さんの中には、学校の先生をされていた方もいて、地区の文化祭にお連れすると、地域の皆さんがとても喜んでいらして。ご本人もピシッとされて。利用者さんがこれまで生きてこられた歴史を感じることで、そういった場所に顔を出させてもらうのはとても楽しいですね」

○これから目指す施設とは？

「理想はもっと気軽にお茶をしに立ち寄れるくらいオープンな施設にしたいですね。顔見知りの方がいたら利用者さんもきっともっと楽しいでしょうし。楽しいことをもっともっと仕掛けていきたいですね」

(インタビューをしてみて)

お忙しい中、介護への情熱をたくさん聞かせて頂きました。認知症になってもその人らしい人生が送れるように、一人ひとりの利用者さんに丁寧に向き合われてきた様子、小須田さんご自身の持つ心の温かさ、感性の素晴らしさを感じました。利用者さんに心を尽くし、共に笑い、たくさん涙を流してきた小須田さんのような介護福祉士さんは地域の宝です。今後のご活躍も応援しています！